

# 札幌市の交通に関する取組の紹介（平成29年度） ～「暮らし」・「活力」・「環境」に寄与する交通を目指して～

## ●札幌市の将来交通に対する基本的な考え方（平成24年1月）

札幌市では、少子高齢化の急速な進展などの社会情勢の変化や低炭素社会の実現といった課題などを踏まえ、市民の日常生活や経済活動を交通面から支えるために『**「暮らし」「活力」「環境」を重視する公共交通を軸とした交通体系の実現**』に向けて、交通に関する様々な取組を行っております。詳細は札幌市総合交通計画をご覧ください。

☞ 詳細は「札幌市総合交通計画」のページへ

URL：<http://www.city.sapporo.jp/sogokotsu/shisaku/sogokotsukeikaku/index.html>

## ●平成29年度に行った主な取組の紹介

### ◇【自動車（道路網）】次世代自動車の普及促進のための補助の実施

[環境負荷低減促進パッケージ]

#### ★ 公用車として燃料電池自動車（FCV）を導入・市内初の水素ステーションを開設

##### 燃料電池自動車（FCV）とは

FCVは水素と酸素の化学反応により得られる電力でモーターを回して走行する自動車で、走行時には水しか排出せず、CO2を排出しないことから「究極のエコカー」として期待されています。

平成30年3月に公用車としてFCVを2台導入し、北海道とともに整備に係る補助を実施した市内初の水素ステーション「エア・ウォーター移動式水素ステーション札幌」が豊平区に開設されました。



### ◇【航空（丘珠空港）】道内空港網の拠点としての利用促進と利便性向上

[観光促進・広域連携パッケージ]

#### ★ フジドリームエアラインズ「丘珠～静岡線」が毎日1往復に増便

##### 概要

丘珠空港からは道内各地（函館、釧路、利尻）と青森県三沢に、(株)北海道エアシステムの路線が就航していますが、(株)フジドリームエアラインズの「丘珠～静岡線」が平成29年夏ダイヤから毎日1往復に増便されました（平成28年度は週2日運航）。

##### <運航概要>

期間：平成29年3月26日（日）～10月28日（土）  
便数：毎日1往復  
機材：ERJ-170/175型機（76席/84席）



丘珠空港の就航先（H30夏ダイヤ）

◇【徒歩】拠点等の幹線道路における無電柱化の推進

[拠点まちづくり支援・都心まちづくり支援・観光促進パッケージ]

★ 幹線道路における電線共同溝の整備を実施

電線共同溝とは…

電線共同溝とは、電線類を地下空間に收容するための施設で無電柱化手法のひとつです。道路管理者が電線共同溝本体を整備し、その中に電力会社、電信電話会社、有線放送会社などが電線類を收容することで、無電柱化を図ります。

平成 29 年度は西 5 丁目・樽川通ほか 6 路線について、電線共同溝の整備を行いました。

<整備目的・効果>

1 災害に強いまちづくり

- 台風や地震時などの災害時に電柱が倒れたりする危険がなくなり、緊急車両がスムーズに通行できます

2 安全で快適な歩行空間の確保

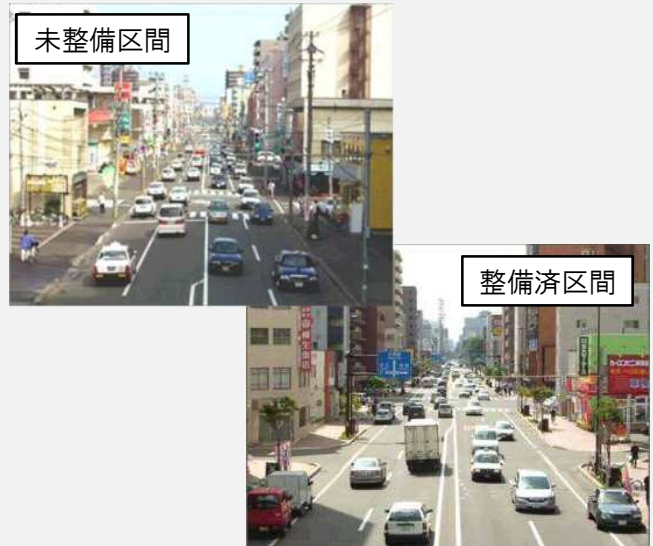
- 歩道が広がり、歩行者や車椅子利用者など誰もが安心して快適に通れるようになります

3 良好な景観形成

- 上空の電線類や電柱が無くなり、景色や見通しがよくなります

4 情報通信ネットワークの信頼性向上

- 災害などが起きた時の被害を軽減することができます



◇【自転車】総合的な駐輪対策の推進（既存用地を活用した駐輪環境の整備、民間整備の制度検討など）

[拠点まちづくり支援・都心まちづくり支援パッケージ]

★ さっぽろ創世スクエアの地下に公共駐輪場を整備

概要

都心部の放置自転車を抑制し安心安全な歩行空間を確保するため、平成 29 年度は「北 1 西 1 地下自転車駐輪場」を整備し、平成 30 年 6 月 1 日からその周辺を放置禁止区域※に指定しました。

※区域内の路上に自転車や原付（50cc 以下）を放置すると、わずかな時間でも撤去の対象になります。

<施設概要>

- 名称：北 1 西 1 地下自転車駐輪場
- 所在地：さっぽろ創世スクエア高層棟地下 1 階
- 利用期間：4 月 1 日～11 月 30 日
- 利用時間：6 時～24 時
- ※原動機付き自転車・バイクは駐車不可

放置自転車が対前年度比で約 82%減少  
(平成 30 年 6 月末時点)

